

幼児の 母



昭和十六年

六月

活氣づく子ら

お子さん達が、新らしく幼稚園児となり、或はまた、新たに年長組幼児となつてから、既に二ヶ月に餘ります。この間に、お子さん達は、幼稚園でどうされたでせう。お行儀もよくなりましたらう。しかし、それは大したことではありませぬ。唱歌も覚え遊戯も上手になつたでせう。しかし、それも大したことではありませぬ。たつた二ヶ月、そんなに著しい仕込まれ方をしたとしたら、却つて心配になる位のことです。

にも明らかなことです。折からの五月六月の自然の、ぐんぐんと伸びてゆき、むくむくと盛り上つて来るのと全く同じく、ぐんぐんと元氣になり、むくむくと意勢よくなつて來ました。あの大きな聲で歌ふのを聞き、なさい。あの強い歩調で遊戯するのを御覽なさい。あの逞しさで飛んで來るのにぶつからして見給へです。お子さんは幼稚園へ來て、上級の子になつて、全く見違へるやうになつたやありませぬか。教育は與へますよ。教へますよ。しかし先づ生命を育てますよ。育つ生命に機會を供するといつた方が正しいでせうか。兎に角、愉快ぢやありませんか。

幼稚園から

○お子さんが、幼稚園から歸られたら、よく顔と手を洗つてあげて下さい。幼稚園でも、一應洗はせてお歸へし、ますけれど、なんといつても汗ばみもしませうし、ほこりもつきませう。だんぐん、氣候が蒸して來て、からだか汗ばんでるさうでしたら、シヤツをぬがせてふいてあげて下さい。

○お子さんが歸つて、疲れてゐるようだったら、三十分程でも寢をさせて下さい。何しろ、幼稚園では勢一ぱい遊ぶんですから、それにだんぐん夏めいても來ますし、おひる過ぎには一寸ぐつたりするでせう。そういう不時の寢は、いろいろの點でいゝことです。但し、疊の上のごろ寢はいけません。ちやんと薄い蒲團でも敷いて下さい。薄い掛物でもかけて下さい。風をひかさぬやうに。

○この頃の燃料不足に、贅澤もいへませんが、入浴も出来るだけ度々。